

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

きょうされん大会	2
みなと区民まつり	6
リコー社会貢献 週間に参加して	8
シュレッター、 バザー品頂きました	9
虫めがね	10
実習所報告、 夕会便り	12
学習会	13
小野塚さん連載	14
和栗さん連載、 寄付のお礼、 スケジュール	15
編集後記	16

2009年
11
月号





病院の窓から小さく見える空に、流れる千以上の千切れ雲が、何かの？
形に見えないかと、想像力を働かせて見ていましたが、シュークリームが1つと親子の熊が1組歩いて
いただけでした。寒くなりますね。皆様はお元気ですか。

太田 圭子



© DE MOOPY



きょうされん大会inさいたま
代表で参加してきました~!!



9月19、20日に第32回きょうされん全国大会が大宮ソニックシティで開催されました。風の子しか知らない僕には、全国から多くの作業所の人達が集まる場というものは新鮮な体験です。会場で開会式が始まり、次に松井朝子さんのパントマイム、ベトナム戦争で枯れ葉剤の被害に遭ったグエンドクさんの講演、そのドクさんを子供の頃から取材し続けている報道写真家の中村悟郎さんの講演と続けました。中村さんの講演は、彼がこれまで撮り続けた写真をスライドで流しながらのお話で、ドクさんのような奇形児を撮ったものも何枚もあり、戦争のおぞましさを思い知らされました。

分科会では僕は自立支援法に苦しんでいる人達の話聞く会に参加しました。自立支援法によって障害者は何を利用するにも1割負担を強いられるということは知っていましたし、それによって今まで通りの生活がしづらくなっているということも、話として



は知っていましたが、実際に生の話として聞くと、切実な問題なのだということを改めて知りました。同時に、僕はなんてのほほんと生きている障害者なんだろうとも思っていました。

二日間の開催で僕は初日しか参加しませんでした。向学のためには両日参加すればよかったかもしれません。次回もしまた風の子が参加するときには、僕も行こうと思います。



小野塚 航

9月19日、20日ときょうされん大会が埼玉県の大宮でおこなれました。

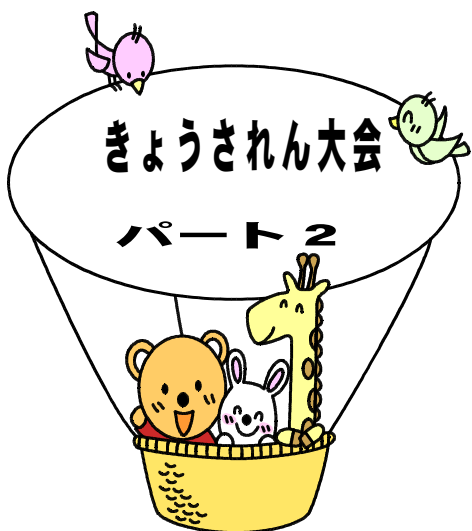
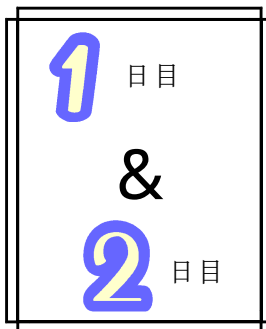
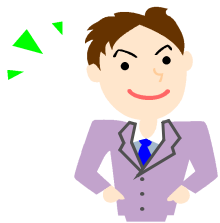
19日に僕と小野塚さんと岡本さん、河原さん、佐藤さんの5人が代表で行ったよ。会場はソニックシティです。初めて行った。

開会式で去年行われた広島県の作業所から埼玉県のふれあいの里に、メンバー代表で花束を渡した。拍手が鳴りやまなかった。会場は狭く、車椅子の人が入りきれなかった。怒っている人もいました。

松井朝子さんのパントマイムから始まった。白のレオタードから着物に変身し、着物マイムをしてくれた。凧やこま、日本古来のマイムをやってくれました。僕は前にいたので、見えない花をくれました。うれしかった。次にベトナムのドクちゃんが講演してくれました。NHKテレビ局が撮影に来ていました。ドクさんの話はベトナム語を話すため、通訳の方がつきました。枯れ葉剤がまかれたために悲劇起こりました。枯れ葉剤の影響で障害を持って、生まれてきてしまったそうです。かわいそうでした。今は奥さんと安心な生活を送っています。中村さんがスライドを見せて解説をしてくれた。スライド写真は綺麗でした。とてもためになった。これからも元気に長生きしてください。分科会は作業所自慢に参加しました。おもしろい意見がありました。ふれあいの里どんぐりでは耳がまったく聞こえない方が通っています。手話でコミュニケーションをとっているそうです。パンやクッキー作りをしているそうです。耳が聞こえないので、焼き上がりを知らせるためにランプがつけてある。焼き上がると赤いランプや青色ランプで知らせる。クッキーを販売するため、袋入れをするのも仕事です。パンのいい匂いとこぼしい香りがたちこめるそうです。甘いハチミツのパンがおいしそうだったので、おみやげに買いました。

最近では代表できょうされん大会に出てなかったため、久しぶりに行けて最高です。また参加をしたいと思います。

松本 恵司



は、どう違うのかを聞いてみたかったのですが、やり方には違いはあるが、仲間代表を選んで話し合いをするという自治活動の基本は風の子と違いがなかったものであった。これで、きょうされんの報告を終わります。



和栗 顕太郎

第三十二回・きょうされん全国大会が、さいたま市大宮区で、二日間開かれた。そのうちの日曜日に私は職員さん四人と共に行って来ました。私たちが、それぞれ分科会に分かれて出席しました。私が選んだ分科会は、「利用者交流分科会の「自治活動を考える」でした。他の障害者の会の作業所が、どんな自治活動をしているか、又、風の子とは、どう違うのかを聞いてみたかったのですが、やり方には違いはあるが、仲間代表を選んで話し合いをするという自治活動の基本は風の子と違いがなかったものであった。これで、きょうされんの報告を終わります。

第32回きょうされん大会inさいたま ～職員編～

九月十九日・二十日と二日間、きよされん大会に出席しました。一日目は、前半が開会式、後半が分科会と分かれており分科会では、「障害者自立支援法と応益負担をなくすために」という分科会に参加しました。この分科会では、自立支援法における障害者の生活面での影響や今後やってもらいたい要望などが話し合われました。まず、参加者が言っていたことは応益負担から応能負担に変えて欲しい、そして職員やヘルパーの待遇をもっと良くしてもらいたい、ということでした。やはり、応益負担になることで今までやってきた余暇活動が制限され、暮らすことで精一杯という意見が多数出ました。また、今ほど職員やヘルパーが減少傾向にあるということのも、今の福祉を取り巻く環境が厳しくなっているということも再認識させられました。

二日目は、「ニーズをもとに地域を耕す」という分科会に出席しました。これは、いかに地域の方々と共存していくのかというテーマでした。まず、感じたことは障害者だけで固まって行事をするのではなく、地域の方を巻き込んで行事を行うことの大切さを知りました。話された方の所では、最初は全然人が集まらなかったのですが、年々地域の方が参加してくださり、一大イベントとなつたそうです。この点は、風の子でも参考すべき所だと思います。また、役所に毎日のように顔を出したり、電話をかけたりすることで、自分たちが認められる存在になったと言っていました。やはり、まず失敗を恐れずに行動をすることが大事だということに改めて気づかされました。

二日間を通して、色々と考えさせられた二日間であり、今の風の子の問題点を改めて、気づかされた二日間でありました。

岡本 裕介



九月の中旬に、さいたままできよされんの全国大会が開催された。私は、二日目の政策・運動を議題にした分科会に参加した。どの分科会も部屋一杯関係者で溢れていたと聞いたが、この分科会も同じであった。

初めは、障害者自立支援法の廃止を求めるための訴訟問題。次に、今の制度のあり方について、全国から集まった作業所団体の現状を聞いた。中には現在訴訟を起こしている原告の方も見えていた。

中でも私が印象的だったのは、精神障害の方が作業所に通う時にかかる交通費が殆ど免除されないとの事。通いたくてもお金がないから通えないと、悔しさが伝わってきた。働く意欲がある人にはそれなりの補償をすべきだと感じた。

どの意見にも共通しているのは、今の制度だと作業所の存続が難しい、予算がない等。切実さが伝わった。それと、各地域によって補償額や対応が違うという事。多少あったとしても、大差が無いようにしてもらいたい。

そして、きよされん大会の最中、厚労相より障害者自立支援法の廃案を明言したとの情報が入った。新法を検討中との事だが、具体的な案がまだ明確ではないので多少の不安が残る。また、廃案になった今までの経緯を見ると、関係団体の運動を何度も行う事によって変えられる可能性が大いにある。だから、今後も運動を起こしていくことが重要だと感じた。

内田 千春

きょうされん大会に参加するのは2回目です。今回は一日目のみの参加となりました。開会式の後にあった特別報告でベトナム戦争の枯れ葉剤の被害でお腹が繋がったまま産まれてきた双子のお一方のグエン・ドク氏のお話を聴きました。彼は松葉杖を使っているのに、動きが俊敏で驚きました。そして、自分の運命を真摯に受け止め、自立している姿は感銘を受けました。間もなく、お子様が産まれるとお話されてました。お幸せに成って欲しいです。

午後は、暮らし住まい分科会（豊かな暮らしを支え合うための余暇）を受講しました。当事者の方の発表で、余暇は心の充実のために必要で、自分のための学習の時間としても人間として成長する為に必要であると。そして、パートナーの存在と、精神的な結びつきは重要と話されてました。私もその考えには共感しました。

河原 雅子

私は2日目の政策と運動の分科会に参加しました。障害者問題の最新事情として、まず最初は障害者自立支援法の廃止を求めるための訴訟問題についてでした。各地の取り組みや今後の展開の意見交換をしました。

各地の争点を整理すると、「本人に提訴の能力があるのか?」「65歳以上は最優先に介護保険に適用されてしまう」「障害者の権利」などがありました。

今後の課題としては訴訟能力の点では代理裁判をするか、それとも成年後見制度にするかだったり、他の問題点では裁判官で内容は変わってきたりすることだそうです。

今後どのような展開になるかはわかりませんが、切実な思いを聞けたし、何かを変えるのには運動も必要であることがわかりました。

次に小規模作業所問題や活動支援策の話をしました。各地域での報酬額や補助額はさまざまなのがわかりました。市町村に移行して欲しいと言われてたり、小規模作業所だと難しいから他と合併して欲しいと言われてたりと、各市町村で問題になっているみたいです。運営以外にもボランティアさんが少なくなっていて、移動手段やイベントが難しいという話もありました。今回の分科会では精神障害者の施設が切実な思いを訴えていたのがとても印象的でした。公共交通機関の水準が低い中、通うことだけでも意義があるのに、交通費の在り方や工賃アップばかり求められ、大変さを理解してもらえないという状況でした。知的や身体と比べて精神は何をするにしても後回しになるということを訴えていました。

この日の前日に長妻厚生労働大臣が障害者自立支援法を廃止を表明しましたが、廃案と言ったことはとても凄いことだと私は思いますが、今後の改正法案がどのようなものなのかが分からない限り、安心はできないと思いました。

矢代 奈津三

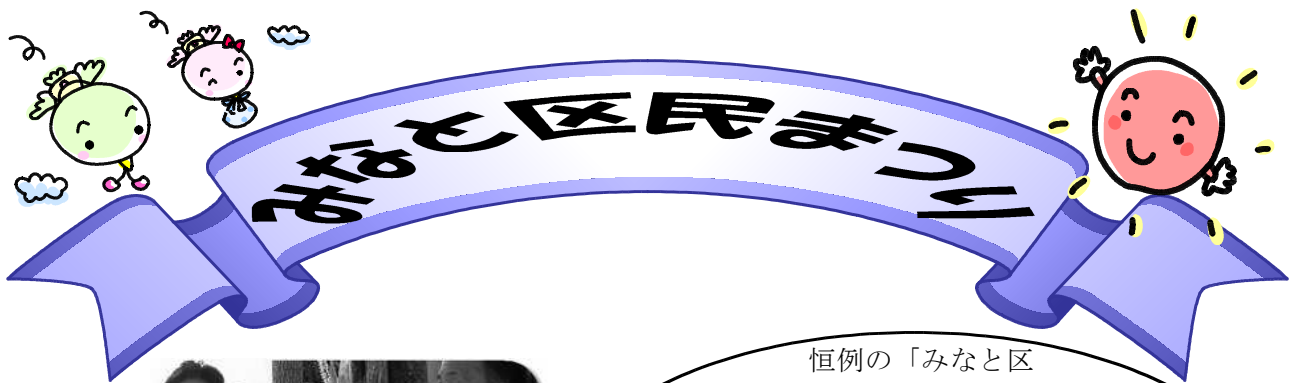
きょうされん大会inさいたまでは、僕は和栗さんと共に利用者交流分科会「①自治活動を考える」に参加してきました。

司会者のリードのもと、参加した障害者、職員ほぼ全員が発言を求められる大変活発な分科会でした。一番に感じたことは、元気な作業所は自治活動も元気であるということでした。障害を持った当事者が自分たちで考え、話し合い、選択する。自分たちの作業所であるという誇りや責任感を持つことが、大切であることを痛感しました。

そこで、我が風の子会を振り返りますと、まずは利用者みんなでの話し合いの場である「夕会」があります。また、代表ではありませんが、旅行などのイベントを計画する「行事委員会」、運営に参加する「運営委員会」など、障害を持った利用者の意見を反映する場がいろいろあります。しかしながら、それらに利用者が主体性を持って参加しているとはとても言い難い現状です。ボランティアや職員に「おまかせ」してしまうムードが多分にあります。ボランティアや職員といった援助者も、自分たちは口や手を出しすぎるんじゃないか、でも盛り上げていかないとみんながやる気を出してくれないというジレンマを抱えています。

今回の分科会に参加してみて、やはり作業所が元気になるためには利用者自身ももっと自分たちのことを主体的に考える場を作り出すべきだと感じました。そして場だけではなく、利用者一人一人の自覚が何よりも大事だとも感じました。風の子会の利用者がもっと自分たち自身で積極的に考えられるようになればと願っています。

丸岡 秀明



恒例の「みなと区民まつり」が10月10日（土）、11日（日）の2日間に渡り、増上寺・芝公園一帯で行われました。初日の午前中は少し雨がぱらつきましたが、後は好天に恵まれ、大変な賑わいを見せました。メンバーとボランティアさんからの感想を掲載しますのでご覧下さい。

商品が売れる様にするには、どうしたら良いか色々考えてみました。テントの飾り付けを工夫したり、商品説明を口頭より何らかの紙に書いて貼ったりして、集客すれば良いではないだろうか。他に、テントの立地条件が悪く来客人数・売上が少ないと思いました。
立石 豪



両日共に晴れ過ぎと言うくらい快晴で雲が全く見当たらない時も有りました（一時ほんの少し雨がぱらつきましたが）。そのお蔭も有ってか両日共にカレンダーの売上金額が良かったし、本数も全体的に多めに(?)売れました。見本が売れる物も有る位でした。この調子でヒューマンぷらざまつりも売り上げたいです。
田村 亮彦

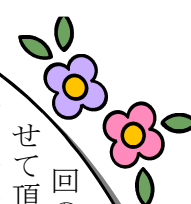
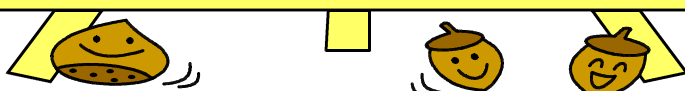
区民まつり売上金額報告

工房（手作り商品等）	82, 200 円
企画（カレンダー等） ※注文数1件	69, 920 円
バザー（古本・陶器等）	68, 360 円
総売上金額	220, 480 円

皆さま、お買い上げありがとうございました。



みなと区民まつり ～ボランティア編～



工房ではストラップ（丸）
が意外に出た～！
しかも去年来た子供が、
今年も買いに来てくれた
よ！固定客も増えてきてう
れしい～(o^o)



私は今年の夏に実習で風の子
会にお世話になったことがきっかけで、今
回のみなと区民まつりのボランティアとして参加さ
せて頂きました。メンバーさん達とは一カ月ぶりにお会い
しましたが、とてもフレンドリーに接して頂けて嬉しかったです。
私が参加したのはお祭り二日目の十一日で、皆さんが疲れていないか
心配でしたが、強い日差しをはねのけるくらい元気を出していらっ
しゃって、私も負けられないという気持ちになりました。
今回が初めてのみなと区民まつりで、その規模と人の多さに驚きました。
各団体やお客さんとの交流も出来て、皆さんがとても生き生きとしていた
ように思います。人の多さを物ともせず、積極的にお祭りを楽しむメンバ
ーの皆さんと一緒に活動することができて、私もすごく楽しかったです。
でも、折角のお祭りだったので、もう少しだけ羽目を外しても良かった
かなとも思います。

障害を持つ方々の地域活動への参加は本当に素晴らしい事だ
と思うので、お手伝いさせて頂けて幸いです。また機会が
ありましたら、ぜひお声を掛けて頂きたいです。こ
この度はありがとうございました。

真子 佳世



今年で区民祭り二回目のちばです！
ピーカンなご機嫌お天気の中、何やらお隣の
テントが気になる男性陣たちがとても印象的
でした（笑）陽気に誘われてビールも一杯頂い
たり…もちろんお隣のテントから。楽しく過さ
せて頂きまして所員の方々始め皆さまどう
もありがとうございました♪
千葉 律子

会報に興味！！
説明中で～す

リコー社会貢献週間に参加して



10月15日(木)新橋にあるリコー本社で、社会貢献週間が行われ、風の子の商品を展示販売をしてきました。代表として、小野塚さんと田中と職員4名の計6名が参加をしてきました。僕は始め、売店にいて呼び込みを行いました。途中から、職員の丸岡さんと矢代さんと一緒に、風の子のチラシなどを一人一人に配ることを行いました。声をかけてくれる方や、通り過ぎる方までいたのですが、普段触れ合えない人に触れ合えて良かったです。今後も一般企業へ声をかけられたら、参加をしていきたいです。

田中 聡



← ストラップがわいー！
→ 代表と一緒に行ってきました。



株式会社リコーには社会貢献クラブというものがあり、そのクラブが主催する社会貢献週間という企画があるそうです。銀座にある本社ビルに周辺の作業所を呼んで、自主製品の販売や作業所のパンフレットを配ることで、リコーの社員と障害者が触れ合い、社会貢献の意識を持とうというのが狙いのようです。

今回、僕たち風の子にも誘いの声がかかったので参加することになりました。常勤職員4名と田中、小野塚という少数精鋭(?)で銀座8丁目にある本社ビルへと向かいました。バザーは何度か経験がありますが、大きな企業のしかも本社内で行うということで、多少の緊張感を伴いながら販売活動をしました。ランチタイムに社員食堂や売店へと行き交う社員に声をかけての販売は、始めは戸惑いながらのやりとりでしたが、ランチタイムがピークに差しかかると社員の数もどっと増え、立ち止まって商品を眺めたりパンフレットを覗きこんだりしてくれる人の数も増え、販売に忙殺されている間に時間は過ぎていきました。



彼らの中に少しでも風の子に興味を持ってくれて、ボランティアとして行事などに参加してくれたら、そこからまた新しい繋がりがみえてくるかもしれません。そして僕たちもこうした活動をしていくことで、新しい広がりがみえてくるかもしれません。

そんなことを感じた、今回の活動でした。

小野塚 航

フロミスさんからシュレッダーをいただきました！

この度は、とても使いやすく便利なシュレッダーを風の子に寄付をしていただきありがとうございます。手の不自由な障害者の方でも、スムーズに出来るよいシュレッダーをいただき、風の子一同感謝の気持ちでいっぱいです。いただいたシュレッダーは、大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。



便利
だ
な
〜
！

風の子会一同

NECツーリスト事業部さんから バザー品頂きました！



誠にありがとうございました。

区民まつりのバザーで販売する為のバザー品を今回NECプロサポート株式会社ツーリスト事業部様より頂きました。突然のお願いにも快く了承して頂き、たくさんのバザー品を提供して頂きました。おかげさまで区民まつりも盛況に終わることができました。

風の子会一同

← 届 きました。





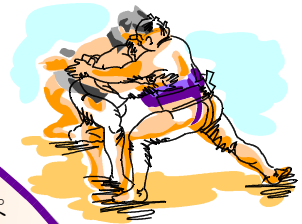
今回からまた新しいテーマです。『好きなテレビ番組は何ですか？』というお題。担当は田中、田村、小野塚、右田です。人によって好みが大きく分かれるテーマですね。さあ、4人の話に耳を傾けてみましょう。

好きな番組は多々在り

さすが、ジャンル別だと『クイズ・頭の体操（頭を捻って考える）系』・『アニメ』・『バラエティ・お笑い』が基本です。『ドラマ』や『映画』は出演者に因って見るのを決めるのではなく、ジャンル（アクション等の）で決めるので其の時其の時です。

『アニメ』は【過去に見ていた漫画のアニメ化】問わず色々見ているので、一時期一週間で二桁見ていた時もありました。『クイズ系統』は必ずと言っていい程全番組見えてきました（特番・定期的番組問わず）。今の時代は良い番組が無いと言われますが（面白くない・似たり寄ったり等）、『アニメ』と『クイズ系統』は今も含め昔っから絶えず見えています。

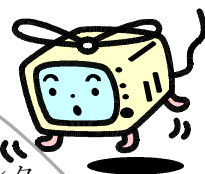
田村 亮彦



僕の好きなテレビ番組は、バラエティ番組です。特に好きな番組は「レッド・カーペット」や「しゃべくり7」が好きで、欠かさず見ています。子供時代はドリフターズが好きで、「8時だよ！全員集合」や「ドリフ大爆笑」などを見ていました。その他に、明石家さんまが司会をしている番組は、どの番組もおもしろいと思って昔から見えています。また、スポーツ番組も好きです。野球やサッカーなどの球技スポーツや、プロレスや大相撲などの格闘技番組を見るのも好きです。ですが、全国放送でプロ野球中継をしないのはなぜでしょうか。僕はジャアンツファンではないので、タイガース中継をCS放送だけでなく、地上デジタルでも放送してほしいですね！これから年末が近づくと、スペシャル番組が行われるので今から待ち遠しいです。

田中 聡





何年か前からテレビをあまり真剣に観なくなった。
夜はたいていテレビはつけてはいるが、どちらかといえば、“
BGM代わりにつけているようなもので、雑誌を読んだりインタ
ーネットを見たり、部屋の片付けをしていることが多く、集中して観
る時間は年々減ってきているように感じる。

ゴールデンタイムはシーズン中はたいてい野球中継をつけているが、昔ほど
熱中してはいないし、ビールを飲みながらだつというたた寝をしてしまったりす
る時もある。バラエティー番組は拒絶反応を起こすようになってしまって最近ほ
とんど観ない。ウケれば何でもいいというか、局やスポンサーのあざとい意図がスタ
ジオからにじみでてくるようで気持ちが悪い。ドラマは好きだが、好きな役者が特に
いる訳ではなく、ストーリーや演出などのドラマの作り方を重点的に観るようにしている。
ただ最近CMの本数が増えてきているので、集中してドラマを観ることがしんどくなっ
てきた（番組内のCMの本数が増えたのはドラマだけではないが）。

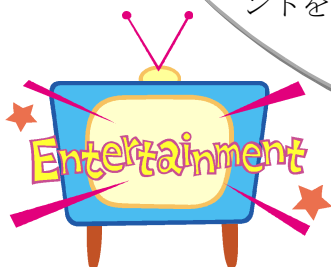
という訳で最近では報道番組をつけている割合が多くなってきた。NHK、テレ朝、日
テレと回すことが多いが、局によって重点を置くニュースが違っていたり、同じニュー
スでも視点が違っている点が興味深い（フジの夜のニュースは放送時間が遅く中身も若
干薄く感じられるのが惜しい）。

一昔前は、テレビは日本の文化の大きな一つの象徴のようなものだったように思
うが、今ではサブカルチャーの一つに成り下がってしまっているように見える。

それだけ文化が多様化してきたということでもあるが、作り手の意識もそれに
比例して下がってしまっていれば、テレビを娯楽として楽しめなくなって
しまったというのは、ある意味仕方のないことなのだろうか。

あるいは、僕の感性がオヤジ化してきていて、若い世代のトレ
ンドをキャッチできていないだけなのかもしれないが。

小野塚 航



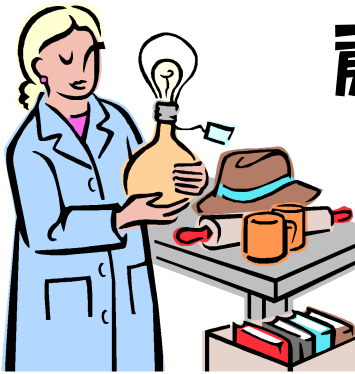
虫めがね

テーマ：好きなTV番組



好きな番組は
SMAP×SMAPです。
好きな歌は「そっと きゅっと」
です。
なぜSMAPが好きなのかとい
うと、みんなかっこいいし、歌
がいいからです。

右田 磨子



風工房

吉田印刷さんと、モリベさんから内職が来ました。工房会議で、区民まつりとヒューマンプラザまつりの商品の数を決めました。たくさん売れると思い、多めに見積もりました。はなみずきやテルベからも、注文がたくさんきました。今はとても忙しいです。

朝生 孝之

実習所報告

10月某日、撮影隊の方々が来ました。工房や企画を撮影していました。多分工房もですが、この日は仕事の画は区民まつり準備の画しか撮れなかったのではないかと言うくらい区民まつり準備で忙しかったです。

田村 亮彦



風企画

夕会便り

九月二十六日

風の子で行う新しい行事について、土曜日のメンバーで話し合いました。色々な案が十七も出されましたが結論は出せずに、ゆっくりみんな考えてまた話し合うことになりました。

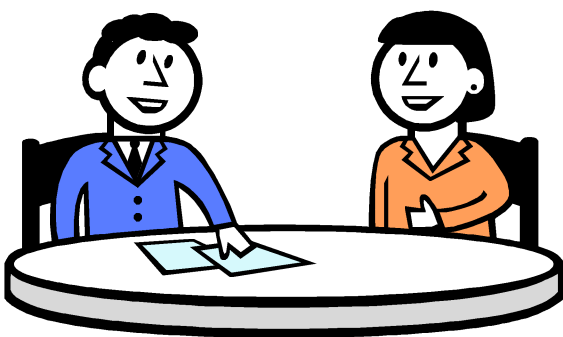
十月三日

ヒューマンぷらざまつりの事と、先週に引き続き、新しく行う行事について、メンバーの考えてきた新しい案を出して貰いました。

十月七日

今週も新しい行事を何にするかの話し合いの続きをしました。

太田 圭子



学習会報告

9月は連休が入ったため学習会は2回の実施となった。16日は職員2名による勉強会。前半は小林くんによる防災講義。災害とは何か、パニックとは何か等、持参した本をテキストに説明。後半は丸岡さんによる政治講義。その日がちょうど鳩山内閣発足の日だったために政治、とりわけ選挙について学んだ。先の衆議院選での自民惨敗や、衆議院と参議院の二院制についてなどをわかりやすく教えてくれた。



30日は国際福祉機器展見学。風の子で行くのは何年ぶりか。ビックサイト内の人の多さには相変わらず圧倒される。今回は学生の見学者が特に多く目立ったように思う。場内で軽くランチを摂った後、それぞれに分かれて見たいところを見学。僕は日用品を見て回ったが、狙っていたものは探しきれなかった。

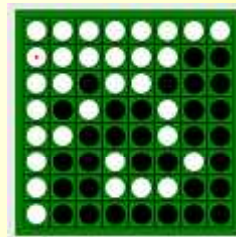


翌10月。第1週の学習まつりのための準備。企画、作業に勤しんだ（区民ま載）。この日は風の子のP来ていて作業風景を撮影。来てきたのかりラックスする。



会は週末に控えた区民工房それぞれに分かれつりについては別記掲Rビデオのスタッフもメンバーも少しずつ慣て被写体に収まっている。

2週目14日は定番のテーブルゲーム。これまた定番のトランプ班と人生ゲーム班、そして今回新たにオセロ班が加わる。各班それぞれにゲームを楽しみ、盛り上がった模様。この日は翌週予定の映画鑑賞についても少し話し合う。どこへ行くか、何を観るか、タイムスケジュールは合うか、等々。話がややたてこんでしまい、少々時間を割いてしまったが、それも致し方ない事か。



次回の映画鑑賞については次号掲載。お楽しみに。



小野塚 航

わたるのドミトリライフ

【ドミトリとは英語のdormitoryつまり寮という意味】

第21話 自身についての内省的考察とその象徴としてのN

HとNがつきあっているらしいということは、部屋の中での雰囲気を見ていてもなんとなくわかった。二人で出かけてそのまま帰ってこないこともあったし、Hが部屋にいないときにNが来たときにはHのベッドに潜り込んで寝ていることもあった。部屋が賑やかで騒がしいときも、僕が一人でまったりとしているときも、Nはしょっちゅう部屋にいた。大学に入るまで僕は異性との接触がほとんどなかった。それが大学の寮生活3年目の奇妙な展開によって異性が部屋に頻繁に来るようになる。たとえそれが僕目当てではないとわかっていても。たとえそれが部屋と一緒に住んでいる後輩とつきあっているとしても。

Nが自然に僕に対して接してくるのが僕には始めの頃はとても不思議だった。中学でも高校でも、クラスメイトには当然女子もいたし、たまに言葉を交わすこともあったが、そういうときにはいつも何か得体のしれない違和感を感じていた。それは若くて青い少年の単純な自意識過剰ということだったのかもしれない。けれどその頃の僕はそういった呪縛から逃れる術をまだ知らずにいたので、周囲一特に異性一とは常に一定の距離をとっていた。寮での生活は、そんな僕の自意識過剰を徐々に解き放っていくようだった。自分の殻を厚く堅くしては他人との共同生活なんてできない。画一された義務教育機関という構造の中で僕は人との接触を恐れ、閉じ籠っていくようになった。それはある意味では仕方のない時代だったのではないかとも思うが、本来の僕が持っていたはずの「人と触れ合いたい」という激しい欲求と、閉じ籠らざるを得なかった状況は、当時の僕を常にアンビバレントな感覚に陥れていた。高校を卒業して寮という新しい生活空間へ入るために、僕はまずこの堅い殻を取り外す作業を行った。寮では僕はとにかく明るく振る舞った。それが僕の本来の姿だったのだろうとも思う。そうすることで、何人かの親しい友人もできるようになったし、可愛がってくれる先輩もできた。明るさというのは時には無邪気さとも見られることもあり、そういう態度が相手に不快感を与え、敵を作ることもあった。けれどもすべての人に対して八方美人でいられる訳もなく、ある人には好かれ、またある人には嫌われ、ということを繰り返した。そうしたことを積み重ねていくことで、人は人との関係を作っていくのだろう。そんなことを、寮生活を通して経験として僕は実感していったのだ。

話が少しそれてしまった。NがHとつきあっている。その事実がどうあれ、Nが僕に対して普通に、自然に接してくれるという事実のほうが僕には重要だった。1年目も2年目も、飲み会などで女子寮生と飲みながらいろんな話をしたり、バカをやったりしながら、僕は異性と接していくことに徐々に慣れていった。そして3年目、自分の部屋に頻繁に、自然に異性がいるという環境にも僕は慣れていった。ただそれは、一緒に住んでいる後輩がつきあっている彼女である、という前提条件が常につきまとはいたのだが。

バリアフリーという言葉は、障害者と健常者の間にはバリア＝壁がまずはあるということの意味している。それを取り除く＝フリーにすることがバリアフリーということなのだろう。けれど僕が住んでいたこの学生寮にはそもそもバリア自体がなかった。健常者も障害者も、一人一人が持っている個性でぶつかり合うことができた。そこには利害関係などなく、単純に好きか嫌いかで関係を築き上げる土壌があった。

そんな場所だったからこそ、僕は本来の自分を取り戻せたのかもしれない。

そんな場所だったからこそ、僕はNに対して好意を抱いたのかもしれない。

それがたとえ、同じ部屋に住む後輩とつきあっているとわかっていても。

～ 第22話につづく ～

シベリア出兵秘話

憲兵が、一階の大広間の扉を開いた。瀬藤大佐以下、金塊輸送部隊四十七名全員が、整列していた。佐伯中将与牛島少将は、ゆっくりとした足取りで、大広間に入ると、居並ぶ将兵の前に立つと、きよつけ一頭（かしら）中の号令で、一斉に敬礼、二人はゆっくり答礼をすると、真つ黒に日焼けをした、瀬藤大佐の前に、歩み寄ると、佐伯中将是、いあー御苦労でした、この作戦には、君が、番最適だと思っただが、私の目に狂いはなかった、私は、心より喜んでる。佐伯は何度も瀬藤の手を握った。

佐伯は、隣に立っていた、牛島少将を紹介をした。この度の君たち、金塊極秘輸送作戦の働きに対し、政府、並び陸軍省より、部隊全員に対して、特に、階級特進を命ずる。これに対して、思わず、同からは喜びのどよめきの声が挙がった。（軍隊を良く知らない、戦後生まれの方に、ちつと御説明しましょう。軍隊と言う独自の社会では、階級が重んじられる社会で、金筋、本、星、つでも、増えることは、兵士にとつて、こんなに喜ばしいことはないのである）話を元に戻す。喜んでる君たちに水を差すようで、心苦しいが、佐伯中將は、では、参謀総長より、命令を伝達する。命令、我が帝国政府の要請に基づいて、金塊輸送、並びに、保管についての、秘密保持の為、輸送部隊全員を満州の各部隊に配属を命ずる。参謀総長 平鹿正信。

次回に続く

栗 あきら

スケジュール

- 10月30日（金）
きょうされん
全国大フォーラム
- 11月10日（火）
運営委員会
- 11月11日（水）
区長との懇談会



ゆっぴりね。

寄付のお礼

寄付して下さい方
国枝三代子様 山田靖子様 諏訪敏子様
賛助会にご賛同して下さい方
小野田和子様

物品を寄付して下さい方
井出義文様 石見陽子様
森様 小野田様 田中様
仲様 NECツリースト(株)様
金子好守様

ありがとうございました





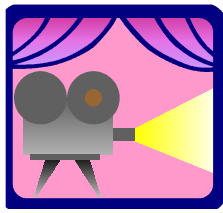
この頃のテレビ番組が、つまらないと思うのは、僕だけかと思っていたら、この間、僕の家に来るヘルパーさんも、同じ様なことを言っていました。よく考えてみると、大作をやる時はいいのですが、(例えば、山崎豊子原作「華麗なる一族」あるいは松本清張の「砂の器」と行った具合に)僕が言っているのは、ごく普通のドラマのことです。これらに比べると「雲泥の相違」があります。昔はあまりなかったように思われるのですが、結局今のドラマはお金を、賭けないといいものが出来ないのでしょうか？

太田 稔



夏休みに行くと、映画を観に行くと、一人で行くのは、二、三年ぶりになる。久しぶりで、寒気がしてきた。前にも何回か観に行こうと思っ

小野塚 航



足の骨折以来(四年間)すっかり活字とは(新聞や本)お別れしてしまっただけ。こんな事ではいけないとどこからかいつも声が聞こえているのだが、身体が私の言うことを聞かないからお手上げだ。でも幸いにして私にはパソコンがある!平仮名のパネルを見ていると心が安まる何とも云えない、優しさを感じて嬉しくなるのは私だけなのかなあー?

太田 圭子



ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集者
 和幸三田佐小太
 栗 木村久田田
 頭 間
 太高直亮 正圭
 郎史人彦庸人子

吉右松田小太
 田田本中野田
 久磨恵
 代子司聡航稔

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://www.kazenokokai.npo-jp.net/>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砩6-26-21

